目次

まえがき……三

本文篇

凡例……九

本文……一一

諸説篇

凡例……一三

諸説篇……一三七

諸説索引……一八三

懸詞一覧……二〇一

雜

8 そよ、つのくにのなからのはしもつくるなり、いまは我身をなににたとへん
津國 長柄 橋造 何

9 そよ、大原やおほろのしみつよにすまは又もあひみんおもかはりすな
朧 清水世 面

10 そよ、むすふてのしつくにこる山の井のあかても人にわかれぬるかな
手 濁 別

古柳　卅四首

春　五首

11 そよや、こやなきによな、さかり藤のはなやな、さきにをゑけれ、ゑりな、
柳 下 花 匂

むつれたはふれ、や、うちなひきよな、あをやなきのや、や、いとそめてた
靡 青柳

きや、①なにそよな
綾小路家本「なにな」。

是以下略之

今様　二百六十五首

春　十①四首

12 ○新①年はるくれは、かとに松こそたてりけれ、松はいはひのものなれは、きみ
門 祝 君

①實數十首。

①以下20番の歌謠までの九首は、底本、歌の頭に○印(墨)あり。

かいのちそなかからん
命

13 ○春の初の歌枕、霞たなひくよしの山、うくひすさほひめをきなくさ、花②をみ
吉野 佐保姫翁 草 見

すててかへるかり
雁

14 ○きくにおかしき和①歌の集は、後撰古今拾遺抄、しんせん金玉朗詠集、六帖前
聞 新撰

後の十五番

15 ○和歌にすくれてめてたきは、人丸赤人をのこまち、みつね貫之みふのたた
岑 小町 躬恒 壬生 忠

みね、遍昭道命和泉式部

16 ○つねにきえせぬ雪のしま、ほたるこそきえせぬ火②はともせ、しとといへとぬ
常 消 島 螢 消 巫鳥 濡

れぬとりかな、ひとこゑなれと千鳥とか
鳥 一聲

17 ○①はくちのこのむもの、平さいかなさい四三さい、それをはたれ②うちえたる、
博 打 好 骰子 骰子 誰 得

文讃京さん月月③清次とか
三刑 三

①白頭分　ヲキナク（平・平・上・上濁）サ〔觀智院本名義抄〕。
②以下、底本小字にて行間に書入。

①和歌（平・平）ワカ〔前田本字類抄〕

①右傍「早」（墨）。
②火　ヒ（上）〔觀智院本名義抄〕。
③底本「志」の「心」が見える。「しとゝと」の「ゝ」字脱か。鵐　シトヽ（平・上・上）〔觀智院本名義抄〕。芝苔々〔天武紀〕。xitoto〔日葡〕。

①底本「く」は「つ」とも讀まる。
②底本「たれ」の下「か」脱か。
③底本踊字「月〳〵」。